

平成26年度事業報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

法人の概況

- 1：名称等 公益社団法人日本植物園協会
Japan Association of Botanical Gardens（略称 JABG）
- 2：設立等 昭和41年4月11日（法人成立の年月日）
平成25年4月1日付けで公益社団法人に移行
- 3：目的等 全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園及び植物に関する文化の発展と科学技術の振興並びに自然環境の保全に貢献し、人類と自然が共生する豊かで持続的な社会の実現に寄与することを目的とする。
（定款第3条）
- 4：事業内容 定款第3条の目的を達成するため次の事業を行う。（定款第4条）
（1）植物園及び植物に関する調査・研究及び資料収集
（2）植物園及び植物に関する教育並びに普及啓発
（3）植物多様性の保全活動
（4）植物園に関する支援
（5）その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 5：監督機関 内閣府公益認定等委員会
- 6：事務所所在地 〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201
- 7：公益目的事業
公1 植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究
公2 植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発
- 8：収益事業等 なし

事業の状況

I：植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究（公1）

(1) 調査及び資料収集

1. 海外事情調査

派遣先はミャンマー。期間は平成26年11月26日～12月6日の11日間。参加者負担金は25万円。主な調査先・調査内容は、ナマタン国立公園（トレッキング・植物観察・植物採集等）、バガン（ウルシに関する見学、調査）ピンウーリン植物園、マンダレー、ヤンゴン（生薬市場、マーケット視察等）。藤川和美隊長（高知県立牧野植物園）を含む8名が参加した。

2. 植物園概要

平成26年10月から正会員にデータ更新調査を送付。92施設の情報を収集した。調査内容の一部は50周年記念誌原稿に使用し、同時に50周年記念誌掲載写真も収集した。調査結果は協会ホームページに掲載予定。

3. 国際活動

10月に中国・南京市で開催されたIABG（国際植物園連合）とEABGN（東アジア植物園ネットワーク）の合同会議に、邑田常務理事が出席した。

(2) 生物の多様性保全

1. 種苗交換

正会員17園から寄せられた情報をもとに種苗交換植物リストを作成。植物多様性保全事業における「絶滅危惧植物種の種苗交換」も一緒に掲載し、正会員に斡旋を行った。なお、「絶滅危惧植物の種苗交換」は種子保存拠点園である環境省新宿御苑がとりまとめとリスト作成を行った。リスト小冊子は正会員に2月に配布した。

2. 植物多様性保全拠点園事業

植物多様性保全委員会の計画に基づき、植物多様性保全拠点園を中心に保全に関する以下の事業を実施した。

①絶滅危惧植物保有状況調査

49回大会において経過報告を行った。情報協力園（58園）、平成26年度末の保有種数は1,059分類群。

②絶滅危惧植物保全データベース

データベース分科会を4回開催。絶滅危惧植物保全データベースのシステム変更修正とスクリーニング作業（公開済約460種）を行った。拠点園中心にデータの入力を継続中。

③絶滅危惧植物の情報取り扱い検討

種苗交換時に「絶滅危惧植物の情報取り扱いガイドライン」を配布した。

④ナショナルコレクション検討

2回の分科会を開催し、今後の事業内容や資料収集、調査、ナショナルコレクション認定の方法等について検討した。

⑤植物多様性保全拠点園ネットワーク活動

- ・ニュースレター刊行配布（3回、各1,000部）
- ・拠点園連絡会議（関東4回、西日本1回実施）
- ・特定植物拠点園活動（ラン科拠点園保全研修を6月に実施）
- ・種子収集（27年度採集計画を検討した）
- ・東北津波被災地の絶滅危惧植物保全の支援（現地からの移植や植物園で栽培して系統保全を図る等、東北大学植物園を中心に検討を行った）

⑥外来植物導入・栽培ガイドライン

11月に環境省の外来生物周知文書と特定外来生物の識別に関する協会作成補助資料を配布した。分科会を1回開催し、BGCIの資料を基にガイドライン策定にむけて検討を行った。

3. ワシントン条約にかかる寄託管理事業

経済産業省との「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）」に基づいて任意放棄され、取得した植物に係る保護及び育成の寄託管理契約」に基づき、経済産業省から寄託された植物の保護育成を行った。本事業は平成7年から継続、平成26年度の任意放棄植物の受入園数は22園、寄託依頼植物数718株。26年度末での保護育成管理園29園、総保護数4,291株。

(3) 学術や文化の振興

1. 第49回大会行事

開催担当：富山県中央植物園

会期：平成26年6月12日（木）～6月14日（土）

会場：ホテルグランテラス富山（富山県富山市）、富山県中央植物園

- ・協会表彰（5名）
- ・記念講演：「富山の自然と植物の多様性」 太田道人（富山市科学博物館）
- ・分野別会議
- ・委員会活動意見交換会（植物多様性保全委員会・将来計画検討委員会）
- ・研究発表会

日時：平成26年6月13日（金）

内容：口頭発表6題、ポスター発表5題

- ・植物園研修：富山県中央植物園スタッフによる園内ガイドツアー
- ・公開シンポジウム（富山県中央植物園第22回 TOYAMA 植物フォーラム）

日時：平成26年6月14日（土）13:00～15:30

テーマ：「ふるさと富山の植物を守ろう ―生物多様性地域戦略と植物園の役割―」

内容：講演3題及び総合討論

※公開シンポジウムは第10回植物園シンポジウムを兼ねて実施した。

2. 植物研究会・技術者講習会

■第1回技術者講習会

開催園：昭和薬科大学薬用植物園

期 日：平成26年5月24日（土）

場 所：昭和薬科大学薬用植物園・玉川大学

参加者：21名

講 師：玉川大学名誉教授 佐々木正巳（元ミツバチ科学研究センター所長）

内 容：テーマは「昆虫の目で植物を見る」。昭和薬科大学キャンパス内の植物・昆虫の観察と講習、ハチの刺害に関する講義、玉川大学ミツバチ科学研究センターの施設見学等を行った。

■第1回植物研究会

開催園：白馬五竜高山植物園

期 日：平成26年7月24日（木）～25日（金）

場 所：白馬五竜高山植物園

参加者：26名

内 容：テーマは「高山植物をスキー場ゲレンデで植栽し育てている現状とこれから」。北アルプスの植生や景観の再現、海外の高山植物の育成にも取り組む白馬五竜高山植物園の現状を見学し、講演を行った。

講 師：土田勝義（信州大学名誉教授、白馬五竜高山植物園顧問）

「白馬連峰高山植物生態園」

森和男（東アジア野生植物研究会主宰、白馬五竜高山植物園顧問）

「長野県に於ける白馬五竜の存在価値とメコノプシスの導入について」

■第2回植物研究会

開催園：新潟県立植物園

期 日：平成26年10月16日（木）～17日（金）

場 所：新潟県立植物園・新潟市内花き生産農家

参加者：58名（うち一般参加者24名）

内 容：テーマは「伝統園芸植物の保全とナショナルコレクション」。伝統園芸植物の研究者による公開講演会を開催し、日本植物園協会が進めるナショナルコレクション構想の取り組み紹介も行った。また、全国第2位の生産量を誇る新潟市内の花き産地で古典園芸植物等の生産状況を視察した。

■第3回植物研究会

開催園：大阪市立大学理学部附属植物園

期 日：平成26年10月31日（金）～11月1日（土）

場 所：大阪市立大学理学部附属植物園

参加者：39名

内 容：「植物を菌類との関係から考える／大阪市大植物園の研究材料紹介」をテーマに講演を行い、第1回西日本地域植物多様性保全拠点園交流会を併催で開催した。

3. 「日本植物園協会誌 第49号」

平成26年11月発行。48号から発行時期を11月に変更、誌面をオールカラーにし、投稿を通年受け付けることになった。49号は、A4版、450部発行。会員への配布のほか、全国の都道府県立図書館に寄贈した。

4. 分野別活動

第1回目は各分野とも第49回大会開催時に実施した。

■第1分野（第50回国立大学植物園長会議・植物園協会第一分野拡大施設長会議）

開催園：東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構

期 日：平成26年12月4日～5日

出席者：7名、およびオブザーバー4名

内 容：東京大学附属田無演習林・機構施設見学

議 題：1) 植物園の大学教育利用についての調査と今後の対応 2) 文部科学省の教育関係共同拠点へのアプライについて 3) 各園の現状報告

■第2分野（第32回国公立植物園運営会議）

開催園：高知県立牧野植物園

期 日：平成26年11月13日（木）～14日（金）

出席者：35名

内 容：テーマ「入園者の増加に向けた対策について／特定外来植物・絶滅危惧種の取扱いについて」を中心に運営会議を行った。

講 演：黒岩宣仁（高知県立牧野植物園 園芸部長）

「牧野植物園の園地づくり～土佐の植物園生態園を例として～」

■第3分野

開催園：白馬五竜高山植物園

期 日：平成26年10月8日（水）～9日（木）

場 所：白馬五竜スキー場エスカルプラザ

出席者：8名

内 容：営業状況に関する情報交換や来年度以降の講習会等について討議、白馬五竜高山植物園及び八方尾根自然研究路の視察を行った。

■第4分野

期 日：2014年年9月12日（金）

場 所：福岡大学17号館

出席者：13名

議題等：1) 平成27年度技術者講習会 2) 東日本大震災復興まちづくりにおける薬草園への協力について 3) 講習会等参加者名簿の公開 4) 薬草ガイドブック野外編の再販（修正等） 5) 50周年記念事業の進捗 6) 分野別会議への協会負担金及び分野別会議での行事開催について

Ⅱ：植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発（公2）

(1) 講演会・シンポジウム・展示会

1. 植物園シンポジウム

第10回植物園シンポジウム

富山県中央植物園第22回 TOYAMA 植物フォーラムと併催し、第49回大会シンポジウムを兼ねて開催した。

日 時：平成26年6月14日（土）13:00～15:30

テーマ：「ふるさと富山の植物を守ろう ―生物多様性地域戦略と植物園の役割―」

参加者：約80名

講演及び総合討論

講演 「富山県生物多様性保全推進プランの概要について」

山下清澄（富山県自然保護課）

「日本植物園協会の植物多様性保全活動」

遊川知久（国立科学博物館筑波実験植物園）

「富山県で発見されたサクラの新品種とその保全」

大原隆明（富山県中央植物園）

第11回植物園シンポジウム

テーマ：ふるさとの植物を守ろう「江戸時代の園芸植物を未来につなぐ」

日 時：平成26年12月14日（日）午後1時30分～4時30分

場 所：千代田区日比谷図書館文化館大ホール

参加者：会員49名、一般参加者120名

参加費：一般参加者1000円

懇親会：参加者51名

・記念講演会「江戸の園芸」 小笠原左衛門尉亮軒（NHK 趣味の園芸講師）

・事例発表「江戸時代の園芸植物を未来につなぐ植物園」

1) 「皇室ゆかりの菊花壇と古典菊」 山田光一（新宿御苑）

2) 「梅 いまよみがえる江戸の光彩―神代植物公園所蔵『韻勝園梅譜』の全容―」 川村東文（神代植物公園）

3) 「市民と守る江戸の園芸」 西川綾子（水戸市植物公園）

・関連企画

日本植物園協会の活動紹介（パネル展示4点）

ロビー展示「江戸の園芸文化を模型で紹介（公益財団法人東京都公園協会）」

2. 展示

平成26年4月29日に開催した新宿御苑みどりフェスタに出展し、パネルおよび希少な植物を展示した。植物展示には新宿御苑の協力を得た。当協会展示ブースへの来場者数は約350名。

(2) 普及啓発資料の発行

1. 薬草ガイドブック、書籍

- ・日本植物園協会第四分野で作成した『薬草ガイドブック』シリーズの頒布を行い、児童生徒、学生、幅広い市民への知識向上や薬用植物を中心とした植物とその文化に関する普及啓発を行った。『薬草ガイドブック・野外編』を新規に5,000部制作、10,000部増刷、『台所の薬草ガイドブック』を5,000部増刷した。
- ・「日本の植物園における生物多様性保全」の頒布を行った。

(3) 普及啓発資料の提供

1. パネル貸出

生物多様性・植物保全の普及啓発等を目的としたパネル（データ）の貸出を行い、1件の利用があった。（豊橋総合動植物公園）

2. 植物園資料ライブラリの運営・更新

植物の画像、教材スライド等の資料を登録・管理・利用するwebシステムについて、各植物園が資料を登録・検索・ダウンロードできるライブラリの準備を行った。

(4) キャンペーン

1. 「植物園の日」事業

広報資材であるノボリを配布し、協会ホームページの投稿欄に関連行事案内・報告を掲載（7件）した。

2. 絶滅危惧植物マーク広報

24年度に作成・配布した、協会で選定した絶滅危惧植物を示すマークを使ったシール等の活用、および各園での活動についての広報活動を促した。

3. 日本植物園協会50周年記念事業

50周年記念事業委員会で創立50周年記念大会、50周年記念展等の準備を進めた。50周年記念誌については、50周年記念誌編集委員会を開催し、原稿募集と編集作業を進めた。植物園紹介ページは、植物園概要調査を兼ねて原稿依頼を行い、編集を進めた。

4. 夢の折鶴プロジェクト支援

東日本大震災被災地支援を目的とする「花を届ける夢の折鶴プロジェクト」を東京都夢の島熱帯植物館が継続して推進した。小学校等への贈呈式は27年4月に実施する。

5. 「玉浦西地区まちづくり」計画への支援活動

「玉浦西地区まちづくり」計画に係る薬用植物、資料の提供等について検討した。

(5) 表彰

1. 表彰

木村賞 兼本 正

「パラグアイオニバスの生活史の解明と栽培・繁殖方法の確立、および大量展示とイベント開催ならびに植物園事業への寄与」

植物園功労賞 山下 英夫

「国営武蔵丘陵森林公園都市緑化植物園の運營業務への多大な貢献と絶滅危惧植物『ムラサキ』の栽培保全活動」

植物園功労賞 村田 雅一

「京都府立植物園における植栽展示の充実への貢献」

坂崎奨励賞 植村仁美

「筑波実験植物園における植物情報管理、企画展、学習支援活動に対する貢献」

Aboc・CULTA 賞 早坂英介

「国際命名規約の翻訳と福井総合植物園における標本データベース構築と園内ラベル設置による正確な学名・栽培品種名の普及への貢献」

Ⅲ：その他目的の達成に必要な事業

1. 後援及び協賛等

1. 主催団体 公益社団法人日本動物園水族館協会

事業名 「いのちの博物館の実現に向けて-消えていいのか、日本の動物園・水族館-」

※平成 24 年度から継続して開催

2. 主催団体 フラワー・ブラボー・コンクール実行委員会

事業名 「平成 26 年度フラワー・ブラボー・コンクール (FBC)」

3. 主催団体 IUCN ラン専門家部会日本支部

事業名 第 7 回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウム

4. 主催団体 公益財団法人広島市みどり生きもの協会

事業名 特別企画展「魅惑の飲み物 コーヒー&紅茶展」

5. 主催団体 国際生物科学連合 (IUBS)、生物多様性 JAPAN (BDNJ)

事業名 Disaster and Biodiversity International Symposium 2014

(「災害と生物多様性」国際シンポジウム 2014)

6. 主催団体 クリスマスローズの世界展実行委員会

事業名 「第 13 回クリスマスローズの世界展」

7. 主催団体 公益財団法人広島市みどり生きもの協会

事業名 蘭花譜展セレクション

8. 主催団体 越後雪割草街道連絡会

事業名 雪割草講演会

9. 主催団体 沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会

事業名 「平成 26 年度沖縄国際洋蘭博覧会」

10. 主催団体 兵庫県立淡路夢舞台温室

事業名 「淡路夢舞台ラン展 2015」

11. 主催団体 特定非営利活動法人のとキリシマツツジの郷

事業名 「能登の秘花 ～のとキリシマツツジ展～」

12. 主催団体 公益財団法人豊橋みどりの協会

事業名「絶滅危惧種展」

13. 主催団体 国立科学博物館筑波実験植物園

事業名 ワークショップ「これからのラン保全」

2. ホームページ活用及び広報活動

- ・情報公開、各事業の告知・報告のため協会ホームページ更新を行った。
- ・JABG ニュース（各2～3ページ）を会員に配布した（発行7回、ホームページ委員会作成）。

3. 諸会議

1. 第49回定時総会

日時 平成26年6月12日（木）

会場 ホテルグランテラス富山（富山県富山市）

2. 役員会・委員会等

【理事会】

- 第1回臨時理事会（書面）平成26年5月16日
- 第1回通常理事会 平成26年6月12日
- 第2回臨時理事会 平成26年6月12日
- 第3回臨時理事会（書面）平成26年8月19日
- 第4回臨時理事会 平成26年12月8日
- 第2回通常理事会 平成27年3月12日

【執行役員会】

- 第1回執行役員会 平成26年5月14日
- 第2回執行役員会 平成26年7月22日
- 第3回執行役員会 平成26年9月19日
- 第4回執行役員会 平成27年2月9日

【監査】

- ・平成25年度事業及び決算報告について平成26年5月8日に監事による監査を実施した。
- ・平成26年度の業務及び財産の状況等について、平成26年10月31日に監事による中間監査を実施した。

【委員会】

・研究発表委員会

第49回大会での研究発表の企画運営。第49号植物園協会誌の編集作業、および第50回大会での研究発表の企画立案（メール会議）を行った。

・植物多様性保全委員会

第1回委員会 平成26年6月5日

・国際交流推進委員会

IABG（国際植物園連合）とEABGN（東アジア植物園ネットワーク）の合同会議へ邑田常務理事を派遣。平成26年度海外事業調査（ミャンマー）の実施。27年度のイギリス調査は、メール会議等でナショナルコレクション視察を中心に企画した。

・ホームページ委員会

第1回委員会 平成26年5月21日

第2回委員会 平成26年10月20日

JABG ニュース7回発行（4月、5月、7月、8月、9月、10月、12月）

・協会表彰候補者選考委員会

第1回委員会 平成27年2月9日

平成27年度表彰者の選考を行った。

・植物園シンポジウム企画委員会

第10回植物園シンポジウム、第11回植物園シンポジウム（将来計画検討委員会と合同で企画運営）を実施した。

・50周年記念事業委員会

第1回50周年記念事業委員会 平成26年6月11日

50周年記念誌編集委員会 平成26年4月12日-13日

50周年記念事業（記念誌編集、創立50周年記念大会、記念展示等）の準備を進めた。

・将来計画検討委員会

第1回委員会 平成26年4月10日

第2回委員会 平成26年6月13日

第3回委員会 平成26年8月20日

第4回委員会 平成26年11月21日

第11回植物園シンポジウムを企画運営し、会員増加・寄付金・会員制度・東京オリンピックをふまえた事業等の検討を行った。

4. 特記事項

・文部科学省生涯学習政策局による平成26年度社会教育功労者として、当協会が推薦した北中進氏（前会長）が表彰された。

・環境省自然環境局野生生物課が設置した「動植物園等公的機能推進方策のあり方検討会」に平成25年度に引き続き参画し、同検討会への協力を行った。

平成26年度事業報告 附属明細書

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。